

【資料】

平成25年度 林業研究・技術開発推進

関東・中部ブロック会議育種分科会

天野 里美¹

9月17日、林野庁講堂において、都県の連携による林木育種の推進を目的として、林野庁・森林総合研究所共催の林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会が開催され林野庁、育種センター、関東育種基本区の13の都県、関係団体から37名が出席した(写真-1)。林木育種地区協議会が平成24年度に林業研究開発推進ブロック会議と統合され、林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会として開催されることになり、今年度から研究分科会と同じ場所・時期での開催となった。



写真-1 関東・中部ブロック会議育種分科会

林木育種事業を巡る動きについて

今年度は間伐特措法の改正により、特定母樹の増殖が国の方針として打ち出され、支援が受けられることになったため、それに関する議題や質問が多くあった。特定母樹の増殖の助成等の制度について林野庁から説明があり、育種センターは、これまで開発してきたエリートツリーや花粉症対策品種の中から特定母樹を申請し、普及を進めていきたいと説明した。都県等はこれから採種園の造成等を検討していくことになるので、特定母樹の認定基準や、エリートツリーや花粉症対策品種との関係等についての質問があった。

林木育種事業の推進について

また、昨年度策定した関東育種基本区林木育種推進計画に基づいて行うことになっている、エリートツリーや初期成長に優れた品種等の開発、各都県での採種

園の造成、林木遺伝資源の収集・保存について、進行状況を確認した。

現地検討会

これまで林木育種地区協議会と併せて現地検討会を行ってきたが、今年度から育種分科会が毎年東京で開催され、同時に開催することが難しくなったため7月に育種センター主催で現地検討会を行った。茨城県林業技術センターのエリートツリー採種園及び花粉症対策品種の採種園、茨城県城里町の国有林にある育種集団林(エリートツリー候補木を選抜するための検定林)を見学した(写真-2, 3)。エリートツリー採種園では、昨年度造成した木が1.5m程に成長している様子を見ることができた。続いて、城里町の育種集団林に案内し、エリートツリーの選抜基準等について説明した。



写真-2 現地検討会(エリートツリー採種園)



写真-3 現地検討会(育種集団林)

¹あまの さとみ 森林総合研究所林木育種センター